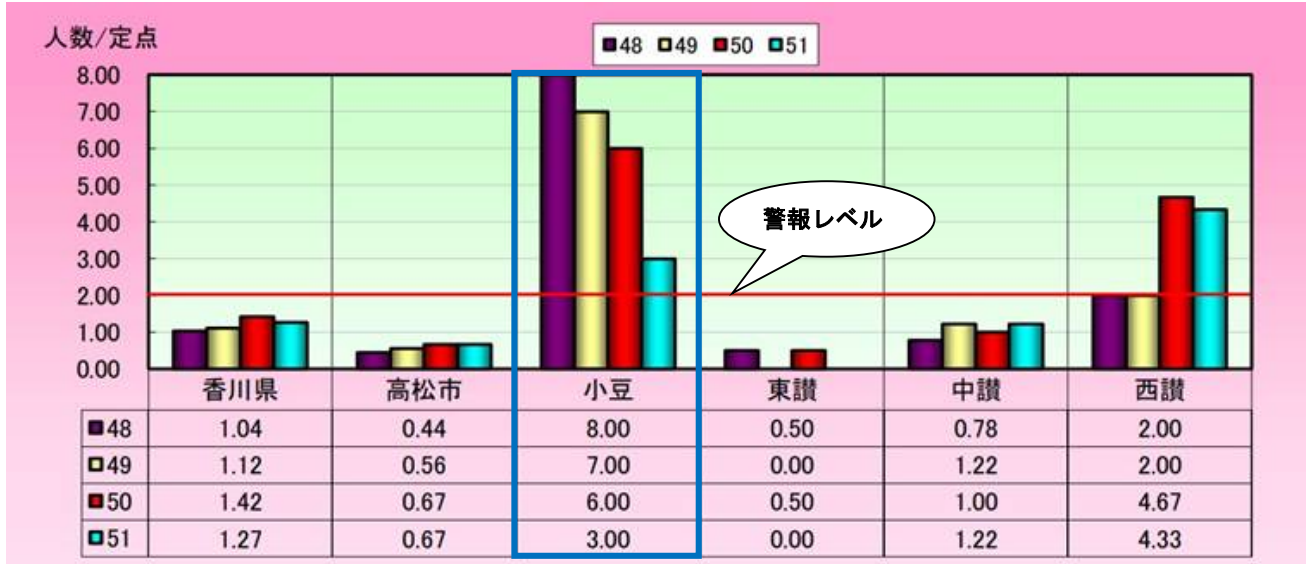


伝染性紅斑（リンゴ病）に気をつけましょう！

現在、県内で流行していますので、しっかりと手洗い・うがいをするなど感染防止に努めましょう。

○保健所別定点当たり患者数（最近4週の発生状況）

〔令和7年 第48週（11月24日～11月30日）～ 第51週（12月15日～12月21日）〕



◇伝染性紅斑（リンゴ病）とは？

ヒトパルボウイルス B19 による感染症です。小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」と呼ばれることもあります。

◇潜伏期間と症状は？

約 10 日間の潜伏期間の後、微熱や風邪のような症状がみられ、その後、両ほほに紅い発疹が出現し、続いて体や手・足に網目状の発疹が現れ、1 週間程度で消失します。発疹が淡く、他の疾患との区別が難しい場合もあります。

多くの場合、両ほほに発疹が出現する 7～10 日前に、微熱や風邪のような症状がみられることが多く、この時期が一番人にうつしやすくなります。

◇感染経路は？

感染した人の咳やくしゃみを吸い込んだり、感染者と接触したりすることによる感染が知られています。子どもを感染から守るため、周囲の人にも基本的な感染対策を心がけましょう。



◇治療や予防法は？

伝染性紅斑に、特別な治療法はありません。基本的には軽い症状の病気のため、経過観察を含め、症状に応じた治療となります。ヒトパルボウイルス B19 はアルコール消毒の効果が乏しいため、流水と石けんによる手洗いや咳エチケットが有効です。

◇妊娠中又は妊娠の可能性がある方へ

これまで伝染性紅斑に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児に影響が出る恐れがあり、特に注意が必要です。できるだけ患者との接触を避け、手洗いやマスク着用など基本的な感染対策を心がけましょう。

